

# 札幌学院大学バリアフリー委員会 バリアフリー通信

第6号



## フィールドワーク

10月21日(水)午後6時30分からA301教室でフィールドワークを行いました。今回のフィールドワークは「介助される人たちへの正しい介助と理解」という目的のもと行われました。

最初に教室で車椅子の扱い方について学び、車椅子体験に臨みました。この体験では3グループに分かれ、2~3人で1台の車椅子を利用しました。各グループ、車椅子では不便だと思われる場所に行き、実際に介助する人・される人の立場で車椅子体験を行いました。

体験の終了後には意見交換会も行い、とても意義のある活動となりました。参加者は29名で、参加者の中には他大学の方やバリアフリー委員会の会員ではない方の参加も見られ、多くの人の関心を集めたようです。(文責 渋谷大介)



## ベストフレンドの会

10月31日(土)午後3時より、札幌学院大学G館5階の特別会議室でベストフレンドの会(BFの会)の総会が行われました。ベストフレンドの会は、代表の長谷川裕也さんによる開会の挨拶から始まり、卒業された先輩方の自己紹介、現在のバリアフリー委員会の活動報告、青木雄大さんの講演、先生方の挨拶、10周年記念の開催についての順に進行されました。講演は社会福祉施設で初めて勤務した時の辛さやボランティアをするうえでの大切な気持ちなどの事についてのお話でした。障がいを持っている人と交流をするうえでどのような事を心掛けるのか、改めて感じさせる会になったのではないのでしょうか。(文責 福井浩晃)



## 五大学交流会

11月8日(日)午後1時から北星学園大学で五大学交流会が行われました。去年の五大学(札幌学院大学・北翔大学、酪農学園大学、道都大学、北海道大学)に加え新たに3大学(北海道医療大学、北海道教育大学、北星学園大学)を加えた参加者約60名が集まりました。

サークルの紹介に始まり、北海道大学担当で自己紹介や交流を中心とした企画が行われました。次に札幌学院大学担当の手話コーラスを披露しました。



今年の曲は、スキマスイッチの「奏(かなで)」と、いきものがかりの「茜色の約束」でした。披露後は、札幌学院大学の学生が他大学の学生と共に練習し、その後発表しました。短い時間にも関わらずとても素晴らしい手話コーラスでした。最後は、北星学園大学担当の茶話会で他大学の学生と交流を深めました。参加者全員がとても楽しく交流できたのではないのでしょうか。(文責 眞鍋秀之)

## 大復習会

11月2日(月)午後6時30分より、1106教室にて大復習会が行われ、約30人が参加しました。この企画の趣旨は、今まで手話勉強会で扱った内容をもう一度学び直すというものでした。まず、参加者は職業や道案内、あいさつなどのテーマごとに分かれたテーブルの中から自分が学び直したいテーマのテーブルへ行き、復習を行いました。休憩をはさんだ後、読み取りの練習として、学習部の人々が表現する単語や会話文の手話を読み取り、紙に答えを書きました。手話勉強会にあまり参加できない人も、もう一度学び直したいという人も、この機会を活かそうと真剣に手話に取り組んでいました。(文責 澤田晴恵)



## ♡ I Love BF ♡



今回の「I Love BF」は、11月3日に東京で開催された第5回聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムに参加した、人文学部4年の山田洸平さん、齊藤友通さん、米田優子さんに集まっていただき、お話を伺いました。

福井：今回のこのシンポジウムはどのような目的で開かれたんですか？

齊藤：日本のいろんな大学、団体が聴覚障がい学生の支援に取り組んでいて、その支援実践に関する情報交換をすることで、これからの支援を向上させていこうっていう目的なんだよね。その中の分科会4に僕らは参加したんだけど、そこでは「支援学生のスキルアップ」ということをテーマに、聴覚障がい学生の立場からニーズの、支援学生の立場から実践例の報告があって、そこで山田君がバリアフリー委員会の実践例を報告してきた、ということです。

福井：どのような内容の報告をしたんですか？

山田：「先輩・聴覚障がい学生の個別指導によるスキルアップ」というテーマで、バリアフリー委員会で行ってるテイク講習会の報告をしてきました。支援学生と聴覚障害学生の両方が参加しているスキルアップのための集まりというのが珍しいらしくて、今回、実践例として報告してくださいということをお願いされました。



福井：他の報告者の話はどのようなものがあったんですか？

米田：コーディネーターを立てる支援の仕方というのを発表していたよね。そのコーディネーターも学生だけじゃなくて、大学の職員がやっていたりとか。大学とかじゃなく地域で（情報保証の）活動をしている団体の人による、テイクの練習教材の発表もあり、体験してきました。

齊藤：あと、テイクが上手く出来なかったとき、テイクが終わった後に被テイク者に「ごめんね」って言うことがあるんだけど、それを言われると、（テイクを）受けている人はこれ以上どうこうして欲しいというような要望を言いづらくなる、ということ初めて聞いて、テイクを向上させるためにも、お互いの言いたい事を言い合える環境作りが必要だったっていうのを、改めて感じた。



米田：それはすごい感じた。しかも他の大学は被テイク者っていう言葉を使わずに、利用者やユーザーっていう言葉を使っていて、利用側にも授業を受ける権利があって、より良いテイクを受けるために要望を自分たちで言えるような、そういういい関係を作らないといけないと感じました。

福井：最後になりますが、今回のシンポジウムに参加して、今後活かしていきたいことは？

山田：さっきの齊藤君の話でもあったけど、僕らはテイクをして、出来なかったときに「ごめんなさい」って思っちゃうけど、思って終わるんじゃなくて、出来ないことがあったら「もっと頑張ろう」、「もっと練習してテイクの質をあげなくちゃ」って思うようにし



ないと改めて思いました。今もうテイクに入っているけどテイク講習会に参加しない人もいるけど、テイクが完璧だっていう人はそういるもんじゃないと思うんですよ。だから、時間があればテイク講習会に参加して、テイクの質をどんどん上げて欲しいと、自分も上げなくちゃと思いました。

齊藤：山田君とかぶるけど、テイクの技術は絶えず磨いていかなければいけないなと思った。講演を聴いてる中で感じたのが、大学の講義の形態もどんどん変わって行って、例えば、黒板を使う人もいるけど、パソコンのパワーポイントをメインに使う講義もどんどん増えてると思うし。黒板を使った講義には対応できるけど、パワーポイント主要の講義に対応するためには、テイク講習会を開く側も、そういう講義に近いテイク講習会を開かなければならないと思う。練習する方も、自分の技術を絶えず磨いて欲しい。一回練習して安心するんじゃなくて、どんどん練習して欲しいと思う。

米田：私はディスカッションの講義でのテイクが難しいというのを聞いていて、それを他の大学ではどうしてるのかなと思って色んな大学の人に聞いたんですが、やっぱり周囲の人たち、他の学生の理解を求めるのが重要というのはみんな言っていて、



(テイクの方法も)バリアフリー委員会ではパソコンテイクが主流だよな?他の大学では机に置ける消せる黒板のような、ホワイトボードだけど丸めたりできるものがあるらしくて、皆もしゃべるんじゃなくてそれに自分の意見を書いていくというのもあったりして。それだと、自分の言いたいことを言えないときに役立ってるんじゃないかなって思いました。

(取材 福井浩晃 記録 小林舞子 撮影 長尾晟和)

## ♪ 編集後記 ♪

兜いずみ：久しぶりに編集やりました☆楽しかったです♪♪

長尾晟和：写真だけ撮りました。今回は、それだけです..(°\_°) ;)

澤田晴恵：今日は久しぶりに推敲をやってやっぱり難しいなと感じました!!でも楽しかったと、またしみじみ思いました(\*^\_^\*)

眞鍋秀之：久しぶりに原稿を書いてみました。最近力になれず、寂しい限りです><

山本由貴：今回はあまり携わっていませんが、良い出来だと思うので是非見てください☆(・▽・)

山田洸平：初めて | Love BF の取材を受けました!!そしてその記事の編集をしました!!! (笑) なんだこの羞恥・・・。楽しかったです!!!!

小林舞子：今回は(今回も)裏方の裏方でした。| Love BF の取材・・・をやっている後ろでパソコンテイクしてました。いい話沢山載ってますよ!!(・▽・)/

福井浩晃：初めてインタビューしたので、何も分からず緊張しました。

渋谷大介：毎回同じ事をやっていますが、やっぱり編集後記は楽しいです!!今回は、かなり良い記事が載っているので、みなさん是非見てください!!

齊藤友通：僕も始めて取材を受けました。最後に思い出をありがとう!!